

めざせ！ 苗場山麓ジオパーク

Vol.

9

振興協議会だより

〔発行日〕平成26年8月21日

〔発行〕めざせ！苗場山麓ジオパーク推進室

ジオパーク認定のための現地審査が行われました



8月4日・5日の両日、炎天下の中、佃栄吉先生、小野昭先生、日比野剛先生の3名が審査員として現地入りし、現地審査が行われました。

まず、拠点施設と位置付ける“なじょもん”での概要説明を行い、ごっつお市で美味なる郷土料理に舌つづみ、午後は振興協議会会長と副会長へのヒアリングの後、会場を瀧澤酒造さん2階に移動し、商品開発部会の積極的な議論を見学し、試作品で喉を潤し、マウンテンパーク津南山頂では圧巻の段丘地形、そして山伏山の風穴、龍ヶ窪、穴藤では古型マンモス象臼歯化石出土地点を視察頂き、魚沼層

群を削り抜いたお風呂のある川津屋さんにお泊り頂きました。

2日目は、猿飛橋で200年前の錦絵と現風景を照らし合わせ、清水川原で鳥甲山溶岩と苗場山溶岩の重なりとそこで生まれる3段の植生分布に感嘆頂き、秋山東線を走り、対岸から結東の石垣田とシンシ穴を遠望し、秋山の現風景が残る見倉で静かに流れる時間を体感頂きました。さらに見倉のトチ林と風穴周囲の北方系植物の局地分布、そしてユキツバキの南限分布域など多様な生態環境に驚き、苗場山麓の奥深さを感じて頂きました。車は、大赤沢を抜け、硫黄川を渡り、信州秋山に入りました。“とねんぼ”では立体地形図を使い、これから巡る地点の概要を話し、布岩山、切明の川原で温泉に手を触れ、佐久間象山屋敷では出土した溶解塊を観察し、のよさの里でお昼です。料理長苦心の一作「布岩山にふる雪（ワラビで柱状節理を表し布岩山に、そこにとろろをかけて雪に見立てた一品）」に関心し、キジ+白米、岩魚、行者ニンニク、えご、山筍入りケンチン汁のゴッツォに満腹でした。さらに、従業員の方々がマタギの話、さらには哀愁ある「のよさ節」を唄って送り出してくれました。



午後は、天池、大瀬の滝を巡り、小赤沢では秋山美人が、湧水を汲んで「のまっしゃい!」、そして漬けてあった茄子漬けを取り出し、「あちゃ、くわっしゃい!」、突然の秋山美人の“おもてなし”には、メロメロでした。車は大赤沢から前倉橋で結東層を観察し、緩いカーブの美しい結東の石垣田では、遠望できる大嶺を共に観察頂き、いよいよ大トリの見玉です。鈴木牧之が描いた不動尊と七つの滝を眺め、壮大な石落しの崖に見入って下さいました。これら大自然の素晴らしさと今後の行政のバックアップの意気込みを話し、共に汗をかいたのもいい思い出です。

この夏最高の炎天下の中、3名の審査員の先生方は汗をかき、笑顔で、一つ一つの視察地点を厳しく審査頂きました。4時には津南町役場に戻り、振興協議会やガイドの方々と意見を交わし、長くて短かった2日間の審査が終わりました。

審査の先生方から伝わったものは「すばらしい資源をどう伝えるのか」「その伝えるには物語が必要だ」、そして「成長するジオパークでいいからアカデミズムで進めよ!」というキーワードでありました。

世界に通ずる地域の宝を再認識し、今まで以上に地域の皆様と汗をかき、一つ一つのジオサイトを大切に育てたいものです。





7月19日は、あいにく小雨交じりの天候ではありましたが、苗場山麓大好き人間が42人集合し、第9回ガイド養成講座を開催しました。

バス2台に便乗し、いよいよ出発です。「鈴木牧之が1日目の宿にした見玉不動尊で名高い金玉山正宝院は…」の話からバスガイドの声が響きます。中津川溪谷は、この先にある中津川第一発電所で幅狭いV字溪谷になります。「この発電所は大正時代、東洋一の発電量でありました。切明から穴藤までの高低差と水量、まさしくジオ環境がなせる業でありました」と話、

次には「川底を見てください。緑色の岩、苗場山麓で一番古い岩石で緑色凝灰岩と呼びます」と語ると、次は牧之が錦絵で書き残してくれた「猿飛橋」、さらには「ほうそう除けの結界が張られていた清水川原」、話題は満載です。「左手を見てください。二枚の岩が見えますね。紅葉になると三枚の錦の帯が輝く、清水川原の大嶺です。上の岩が30万年前の苗場山の溶岩で、下の岩が、烏甲山が77万年前に吹いた溶岩です。また、上下の岩の色や雰囲気、違いますよね。なぜ違うのかは、座学でしっかり学びましょう」、バスは大きくうねりながら急な坂道を苦しそうに登ります。前方が開けたところで「みなさん、右側をご覧ください。あれが結束の石垣田です。この石垣田の材料は、後ろの岩壁から崩落した柱状節理という柱を折ったような角礫です。信濃川沿岸の石垣田は丸礫です。その違いを説明しましょう」との声。

次は、秋山の原風景が残る“見倉”です。車から降りて歩きましょう。「さて、村の入り口にあるこの石造物を観察しましょう。ここに何があります?」「これは三猿、見ざる、聞かざる、言わざる」「へえ～面白い」「これが青面金剛様です」「庚申様とは…」と石造物と歴史文化の話が展開しました。対岸に見える崖が「シン穴」です。「シン?」「シンとはアオジシ、カモシカのことです」「へ～、でもあの鉄塔が景観を壊しているな」「そう思いますか?大切な指摘ですね。皆さんの声で、迷彩色に塗ればいいですよ」と対話をしながら村の中に…。

「さて、これから風穴を探访しますが、足元には里草のオオバコがたくさん繁茂していますが、我々が靴底を通して運び入れたようで、このようなことも皆さんと考えながら歩きたいものですね」と語り、「この植物は生きた化石です。冷たい風が吹くことで氷河時代の植物がここだけに残って生育しています」などの話を専門員がガイドしました。大赤沢では八幡様と蛇淵の滝を観察し、お昼は上ノ原の「のよさの里」でイワナ定食に舌つづみして、小赤沢に住む参加者が「のよさ節」を唄い、素敵な時間に酔いしれました。午後は、佐久間象山屋敷、栗地藏、そして切明では「なぜに湯本が切明という地名に変わったのかな」と話しながら、川原の温泉へGO! いました水着の女性3人。これも旅の楽しみ?

バスはブナの樹海を抜けて、屋敷の布岩山です。皆さん、降りて見上げてみてください。「わ～すごい!」ここでは地質大好き御大の出番! 90代の翁が話す。その声にみんなが聞き入ります。すごい! 「岩の間にあるあの赤いのは苔か?」の一言。みんなが一斉にカメラで観察。結果、赤い花であることが判明。それに皆が感動!

一路、結束の石垣田と風穴へ、さわやかな風にあおられての散歩。その冷風の不思議と石垣田の景観に酔いしれた苗場山麓大好き人間は、今日一日の終わりを集合場所で…。

「皆さんの日ごろに精進のお陰で大降りせずに楽しいガイド養成講座が事故無く、無事に終わりました。次回会うときは現地審査が済み、ライセンス当落がウスウス伝わる頃かなと思います。これからも皆さんと共に頑張って、この素晴らしい自然環境と歴史文化を守りましょう」と熱く語り、帰路につきました。

COLUMN

大地の息吹と 現代を結ぶ 崩落地形～大地震の跡か?～



笹葉峰上空から太田新田を望む

太田新田集落を地図で見ると、東側の笹葉峰周辺を中心として半円状になっていることが見てとれます。これは、なんらかの大きな力によって、笹葉峰から西側へ中津川に向かって崩落した場所です。

現在の太田新田集落は、この崩落によってできた平らな土地に立地しています。

そして、ここでは、苗場山の溶岩が中津川を埋めたことが分かります。集落裏側の上部に、中津川の対岸で見ることができる溶岩と同じものを見ることができるからです。そして、さら

に地図をみると中津川が左にクランク状に曲がっていることがわかります。これも崩落による土砂が川の流れを変えたと考えられます。そして池田の池の南側には、森がうっそうとしていてなかなか見ることができませんが、苗場山の溶岩の大岩が点在しています。なかには和製スフィンクスとも言える「しし岩」があります。



しし岩

めざせ！ 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57 の見どころを随時紹介していきます

山伏山と風穴



所在地 津南町

種別 地質

約220 万年前から150 万年前には、陸化した関田山脈や中津川・志久見川上流部で火山活動が起きます。溶岩、火砕流、火山泥流などの火山碎屑物は、今の丸山・氷山などの東頸城丘陵の山並みの頂部をつくっています。その1つである山伏山は、信濃川左岸に位置する、標高903m の釣鐘状の山です。この山はかつて現在より大きな山であり、固い山の心棒とも言える火道の部分が残っています。この山体を構成する安山岩は、魚沼層群に貫入したもので明瞭な柱状節理が形成しています。また山体主軸に直交する横位に並ぶ板状節理を見ることができます。

その裾野には、頸城丘陵ジオトレッキングの一つの拠点である無印良品山伏山キャンプ場があり、周囲には薬師湖や風穴を利用した養蚕卵保管施設跡などがあります。風穴は山の東側岩壁下部海拔約780m を縁取るように散在しており、養蚕卵保管施設跡はその内の北東部の風穴地にありました。今も石組みが残されていて、岩隙から盛んに冷気が吹き出しています。この養蚕卵保管施設跡は、平成24 年3 月29 日津南町有形文化財に指定されました。また、この山伏山キャンプ場から少し離れたところには、かつて海だったことを示す二枚貝などの化石が堆積している地層を見ることができます。

中津川上流域の温泉群



所在地 栄村・津南町

種別 地質

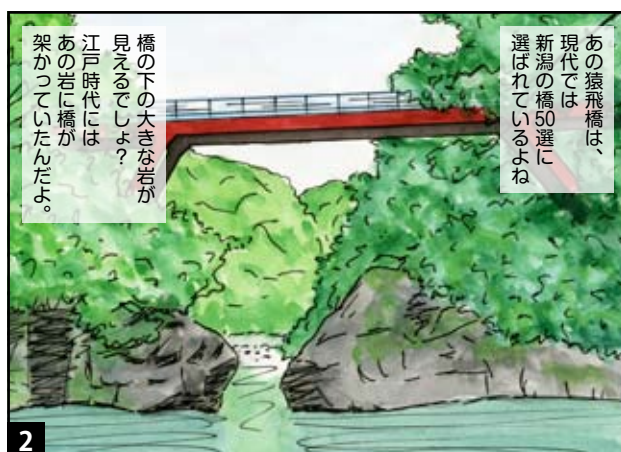
中津川沿いには、下流から、逆巻・結束・小赤沢・屋敷・上ノ原・和山・栃川高原・切明と温泉が続いています。

鈴木牧之が『秋山記行』に記述したのは湯本（切明）だけで、和山にあることは確かめましたが、時間がないと立ち寄っていません。明治39 年（1906）の小林存の体験記には、逆巻・屋敷・和山・切明の温泉がでています。その内、屋敷は自然湧泉と200 mほどボーリングした源泉を利用して、その他の温泉は自然湧泉です。屋敷温泉は、硫化水素の臭いが強く、湯の華が顕著です。切明温泉は、川原の砂利を掘り起こすと温泉が湧き出ます。また、結束は700 m・栃川高原は300 mのボーリングによって近年掘り当てた温泉です。小赤沢も同様にボーリングによるもので、楽養館のお湯は湧口では透明ですが、すぐ酸化して浴槽の底が見えないほど赤褐色をしています。

熱源については確かではありませんが、苗場火山が鳥甲火山より新しく、硫黄川の硫気変質帯の中に温泉があったと小林存の報告にあるので、小赤沢・屋敷・和山・栃川高原、特に屋敷温泉は苗場火山に関係した火山性温泉と思われます。

中津川沿いに温泉が並んでいることは、この川沿いに断層などの多くの割れ目があることを示しています。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。



津南町と栄村の全集落をつなぐリレー



7月26日、第35回つなん夏まつりが行われました。この応援イベントとして、ランナークラブ・心友懸走会が、「めざせ！苗場山麓ジオパーク」ののぼり旗を持ち、津南町と栄村の全119集落をリレーマラソンで周り、各集落の住民の方からののぼり旗に手形とサインをしてもらいました。

この一つ一つの手形にこもる思いはひとつです。信越国境を跨いで接する津南町と栄村が手を取り合い、助け合い、先祖から守り抜いてきた豊かな自然環境と歴史文化を大切に守り伝え、それを核とした新しい地域作りで「元気」を取り戻し、持続することです。

大割野商店街にジオパークののぼりが登場！



大割野商店街の街灯にジオパークののぼりを設置しています。

これは広報部会の活動で、雪をイメージしたブルーでデザインされ、涼しげな印象に仕上がっています。

広報部会では、今後ともより多くの方にジオパークの活動を知って貰えるよう、様々な活動を展開してまいります。

ロゴマークデザインコンテスト開催中！



ただ今、「めざせ！苗場山麓ジオパーク」のロゴマークデザインを募集しております。

応募締切は平成26年8月31日となっております。詳しい募集要項は、Webサイトをご覧ください。

<http://naeba-geo.jpn.org/rogomarkcontest>

今後のスケジュール

平成26年8月28日 日本ジオパーク 審査発表

平成26年8月30日 ジオパークガイド養成講座第10回「苗場山周辺」(予定)